

# 須崎市立須崎小学校 英語科授業づくり講座

～子どもの可能性を信じる山崎教諭の実践～

発行  
令和元年7月30日  
中部教育事務所

授業者 山崎 大輔教諭 ALT Ms. Alicia 佐藤

Let's try! 2 Unit4『What time is it?』

## 単元計画 (本時4 / 4)

- 第1時 時刻や生活時間の言い表し方を知り、ゲームを通して言い慣れをする。
- 第2時 友達同士で自分の好きな時間を伝え合うことを通して、さらに表現に慣れ親しむ。
- 第3時 「4年生の好きな時間」を予想し、質問したり反応したりしながら、互いの好きな時間や理由について伝え合う。
- 第4時 「先生の好きな時間」を予想し、初めて出会う先生方ともよりよいコミュニケーションができるよう、挨拶や反応を返しなが互いの好きな時間や理由について伝え合う。

## 準備物

- ・リフレクションシート
- ・日課絵カード
- ・ワークシート



## 本時で達成したい目標

相手に配慮しながら、自分の好きな時間について伝え合う。

## 授業の概要

まず、HRTとALTのデモや簡単なSmallTalkで本時の活動の見通しをもたせ、予想した「先生の好きな時間」を知るためには、たくさんの先生とやり取りを行わなくてはならないという必然性のもと、互いにサポートし合えるようにペアをつくり、好きな時間を伝え合う時間を設定する。中間評価では、相手の表現を繰り返したり反応を返したりしている児童、進んで自己紹介ができていた児童を価値づけ、全体で共有した後2回目の活動を行うことで、『相手に配慮しながら(本時では、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉やジェスチャーを返しなが聞くこと)、自分の好きな時間を伝え合う』という本時の目標の達成を目指した。

## 本時の展開

活動内湯	指導上の留意点
1 Greeting Small talk	楽しい雰囲気です授業を始められるよう、HRTとALTが互いに役割分担をした上で、既習表現を使って児童とやり取りを行う。
2 Let's Listen Activity① HRTとALTのやり取りを聞き、活動の見通しをもつ。 使用表現をALTと練習し、ペアでやり取りをする。	・HRTとALTが互いの好きな時間を伝え合うデモでは、イラスト等を用いて視覚支援を行う。 ・反応例を共有する際に、HRTや児童の写真を活用した掲示物を準備し、「ジェスチャーも付けて反応を返してみようかな」という思いを引き出す。
3 Activity② ペアの友達と協力しながら、先生とやり取りを行う。 中間評価で共有したことを意識して、再度やり取りを行う。	・本時のねらいの達成につながる児童の姿を見取り、個別に価値づけると共に、中間評価で全体に広げる。 ・やり取りで困っている児童を支援する。
4 Reflectiocn 振り返りシートに書き込み、発表する。	初対面の先生と進んでやり取りしようとしている姿や、質問したり答えたり、さらに反応を返したりしながら伝え合おうとしていた姿を評価し、次時への意欲につなげる。

## 板書例



大事なことは板書で可視化

児童の写真を使った掲示物

HRTの写真も効果的!

## 授業づくりのポイント



【授業研究会でのグループ協議の様子】

## 《まずは、単元デザインに挑戦!》

- ①児童の実態を把握する。(アンケートや授業での姿をもとに、どのような課題があるのかを掴む)
- ②単元を通して児童にどのような力を付けたいのかを明確にし、単元ゴールの言語活動を設定する。(目標と評価規準の整合性に注意!)
- ③設定した言語活動は、必然性のあるやり取りになっているのか、児童の実態に合っているのかを再度確認する。
- ④言い慣れ・聞き慣れの時間が十分に確保されているかを意識しながら単元を構成する。

## 《中学年での学びが高学年の学びへ...》

中学年の外国語活動で、聞いたり話したりすることの楽しさや、伝え合うことができた!という達成感を十分に感じられる経験を積み重ねておくことが、高学年での少し複雑な表現・やり取りへの意欲につながる。その為には、授業のなかでHRTとALTの楽しそうなやり取りをたくさん見せてあげることが大切である。そうすることで、互いに相手意識をもったコミュニケーション(聞き手の理解の状況を確認しながら話す・相手の発話に反応しながら聞き続けようとする)の必要性に児童自身が気付くからである。やって見せる指導を通して、中学年の学びを高学年へとつなげていきたい。



鳴門教育大学准教授  
中妻佳代先生

## まとめ

あわてず あせらず 粘り強く

授業の最後には、「英語を話すのは楽しい!」「他の学校の先生や、いろんな人に聞いてよかった!」「先生達が反応を返してくれて嬉しかった!」等のような声が児童から聞かれ、『コミュニケーションへの不安があり、自信をもって表現することが苦手』という学級の課題改善に向けた取組の成果を児童の姿として見る事ができた。何より、学級担任の深い児童理解と個々の可能性を信じる強い思いがあったからこそ、中学年にとって少しレベルは高いかもしれないが、初めて出会う先生方とのやり取りが可能になったのではないだろうか。さらに、やり取りを行う必然性のある場面設定や、本時までの十分な言い慣れ・聞き慣れ等が、『相手に配慮しながら、自分の好きな時間を伝え合う』という本時の目標の達成につながったと考えられる。